

るくおん通信

発行日： 1991年 5月15日

No. 34号

発行者： 盲人情報文化センター録音製作

短歌・俳句などの二度読み考

藤堂麻須子

私は、短歌・俳句などの読み方を大別すれば、二通りあると考えています。

1. 文中に引用されたもの
2. 作品集として上梓されたもの

1. の場合は一度読み —— 内容を把握して、ゆっくりと読む。長歌などもこの部類に入れています。
2. の場合は二度読み —— これは研究であったり、鑑賞であったり、学習としてとらえています。一度聞いただけでは理解しにくいからです。

読者の中には、“嗜む”ばかりでなく、歌集や句集を上梓されたり、立派な作家も多くおられます。その方達に、自作品を或は有名作家の作品集を読むということは、だいそれたこと。でも、音に変えなければ無に等しいのですから困ったものです。自作品の場合は特にご自身の意図と音訳者とは、大きな落差があります。それを埋めるための努力が求められます。その上、こういう類は、人それぞれの感性が大きく作用します。お互いが作品の理解を深めるためにも、音訳者は下調べに力を入れ、幾度か声を出して読み、滑らかに仕上げたいものです。

◎二度読み留意点

一度目は、五七五 七七と句切れるものは区切り、二句切れや字余り、又、句切れないもの等、いろいろありますが、ゆっくり、はっきりと間をおいて読みます。

二度目を読む前に、必要に応じて字の説明や補足する言葉を最小限に添えます。

そして二度目は鑑賞として、と心がけています。

こんな頭痛のタネもあります。俳句の場合、

故郷は コキョウかフルサトか、 山脈はサンミヤクかヤマナミか

蟻螂は トウロウかカマキリか、 時刻はジコクかトキか、

木の実は キノミかコノミか

など作品の流れから、読みを考えるのは勿論ですが、字数の上からも判断しています。

正誤表から……その10

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
喧伝	センデン	ケンデン	掲げる	アげる	カカげる
面通し	メンドオシ	メントオシ	官吏	カンシ	カンリ
最大手	サイダイテ	サイオオテ	江州米	コウシュウマイ	ゴウシュウマイ
側妻	ソクサイ	ソバメ	仲介者	ナカガイシャ	チュウカイシャ

上手な家庭録音

録音レベルと雑音

家庭録音で気になる雑音をいかに減らすかを考えてみます。雑音は自動車の音、時計の音、冷蔵庫の音など様々ありますが、まず、これらの雑音あまり目立たない時間帯や部屋などを選ぶことも大切な事です。録音技術でもかなり雑音を減らすことができます。

周りの雑音を減らすには録音レベルを小さくすればよいと考えている方がいるようですが、実はそれだけでは雑音を減らすことにはなりません。確かに、録音レベルを小さくして録音すれば雑音は小さくなりますが、同時に自分の声も小さく録音されてしまいます。声の小さいので、聞く時は再生ボリュームを大きくしなければならないため、雑音も一緒に大きくなってしまいます。それだけでなくテープ自身の発生するシャーと云う音も大きくなり大変聞きづらいテープになります。

それでは具体的な方法はどうすればいいのかを考えてみます。ようするに雑音小さくし、自分の声は小さくならないように録音すればよいのです。その為にはマイクと口との距離を今までより近づけなくてはなりません。今まで40センチの距離で録音していた人が、20センチくらいになると音量は4倍になります。また、指向性のマイクは無指向性と比べて2～3倍は感度がよくなります。(無指向性のマイクは録音図書用には向いていません。)つまり、マイクとの距離を短くすることで録音レベルを小さくしても、声は小さくならず、周りの雑音だけが小さくすることができるのです。しかし、マイクとの距離は近いほど良いというものでもありません。10センチ前後まで近づけても何も問題のない人もいますが、あまり近づくと口の中の音が目立ったり、破裂音の時にゴボッと音がしたり、ほんの少し顔を動かす度に音が大きくなったり小さくなったりとさまざまな問題も出てきます。録音状態は、録音レベル、マイクの角度、マイクと口までの距離、部屋の大きさや種類、マイクの種類、などによって様々に変化します。家庭での録音の場合、概ね20センチ前後で一番本人に適した状況を自分で発見していく必要があります。録音のレベルの見方は32号で取り上げましたのでそれを参考にしてください。

校正基準について・・・その6 (最終回)

アクセントの違い、処理の統一はされているか

録音製作係 清水賢造

前回、「聞いて分かる読みになっているか」という題で書いたことから、疑問が出されました。さきにこの問題についてふれます。

音訳者はどんな言葉も聞き手にわかるようにしなければならぬということではありません。難しい言葉や熟語が出てきたら意味が通じないこともあるでしょう。そんな時に音訳者が辞書を調べて意味をつけ加えて聞き手がわかるようにしてあげることではありません。辞書で意味を調べなくては分からないものは暗眼者だって同じ条件です。(逆に利用者の方は説明しなくても知っているかもしれません。) そういうときではなく、同音異義語が沢山あり判断できないときや、辞書にも載っていない言葉(著者の造語など)で、漢字を説明すれば一定の理解ができるとき、漢字そのものが問題になっているときなどで、暗眼者は漢字を見ているので理解できるのに、音だけで聞いている人は分からないというときに説明が必要になるということです。前回の「聞いて分かる読みになっているか」は今後、「必要な時に適切な説明がされているか」に変えたいと思います。

さて、アクセントの違いをどう扱うかの問題ですが、原則として誤読として扱う場合は、前後の文章から誤って伝わるようなアクセントの違いは誤読扱いにすべきでしょうが、前後の文章から間違っても伝わる恐れのないものまで全部誤読として直す必要はないと思います。もちろん作品や読み手によって変わる場合もあると思いますが、タイトルや梓アナなどのアクセントの違いは直すようにしましょう。直すまでもないが気がついた違いは備考欄などにあげるとよいでしょう。アクセントも時代とともに変わるものもあります。できるだけ新しいアクセント辞典で確かめるようにしましょう。

処理の問題として、目次を読むときに大中小の関係を分からせるために、項目の前に1の1などをつけ加えたら、本文の時も忘れずに読んでいるかとか、()の中の読み方が正しく伝わるような読み方になっているか、綴りの読み方が統一されているか、録音図書凡例で断わったことが守られているかなど気をつける必要があるでしょう。

校正基準について6回にわたって考えてきましたが、一応今回で終わります。

漢字の問題をとりあげましたので、幾分混乱も見られますが、このテーマは今後、「音訳研修の会」などで考えていけたらと思います。

今月の「音訳研修の会」では、「どんな時に説明が必要か」というテーマになっています。ぜひご参加ください。

「音訳研修の会」のご案内

日時：5月25日(土) 13:30~15:30

場所：盲人情報文化センター9階ホール

内容：どんなときに字の説明が必要かを考える。

リクエスト図書一覧

下記の図書は利用者から原本を用意されて製作依頼を受けていますが、音訳してもよいと思われるグループや個人の方がありましたら、清水までご連絡ください。はじめてのグループも歓迎します。

(連絡先:06-441-0015盲人情報文化センター内線72、清水まで)

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------|
| 『Lisp/MS-DOS版エキスパートシステム構築法』
／高橋邦芳著 | 『やさしく話すスペイン語』／大林文彦著 |
| 『季刊 障害者問題研究』／全国障害者問題
研究会 | 『無功德』／承福寺 |
| 『天文台からみた世界』／古在由秀著 | 『情的生活のすすめ』／黒田清著 |
| 『臓腑経絡学ノート』／北辰会出版編 | 『日本語MS-DOS TMV3.11-ザブ
リアルス』 |
| 『ワインと料理の相性診断』／渡辺政澄他著 | 『ヨーロッパのこころ』／犬養道子著 |
| 『ガラパゴス諸島「進化論」のふるさと』／
伊藤秀三著 | 『自由とロマンの共和国』／森村誠一著 |
| 『桃子歳時記』／辻桃子著 | 『戦後日本の政治過程と憲法』／川口是著 |
| 『親と教師が蘇る時』／伊藤友宣著 | 『障害児者のいのち・発達・自立』
／河野勝行 |

音訳を引き受けて頂いた図書とグループ名

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 『折伏教典』／創価学会教学部編 | 「木曜会」 |
| 『スペイン語会話110番日常生活編』／寿里順平著 | 「ICCBリクエストグループ」 |
| 『歌集 光の海へ』／横山三樹著 | 「ICCBリクエストグループ」 |
| 『みまつ9月~2月』6冊／会報 | 「えくてもあ」 |
| 『中国小史』／ | 「ICCBリクエストグループ」 |